

## 編集後記

佐々木 敏隆

(神奈川県立図書館紀要編集会議座長)

今年度は司書職が久々に6名と多くの採用があり、県立の図書館2館に4名、県立高校に2名が配属され、また、県立図書館新棟の予備調査の実施や図書館総合展におけるフォーラムなど、県立の図書館を巡る動きもさまざまある中で2年ぶりに紀要を発行することになりました。

第12号となる今回の紀要の発行に当たっては、図書館職員の研究成果の発表や図書館事業、図書館コレクションの発信という発行目的を踏まえて、日ごろの業務を通じた考察や課題整理、これまでの取組みを検証しての提案をなど、様々な切り口での執筆がありましたし、今年度採用されたフレッシュな職員による執筆も2編あり、県立の図書館2館職員の幅広い層により執筆された紀要として発行できました。

その中では ICT の進展著しい昨今において、2015(平成 27)年4月から稼動している「第5次 KL-NET システム(本編 P25)」は、その準備段階から機関リポジトリを意識した開発となり、当館と知事部局2所屬による部局横断のクロスファンクションにより10月から公開している「神奈川県行政資料アーカイブ(本編 P3)」をシステム面から支えていることから密接に関連した2編となりました。

また、川崎図書館の職員が執筆した「書庫内雑誌利用調査(本編 P129)」は同館の特徴ある資料群の利用形態を知る端緒となり得るものであり、「展示を中心とした広報活動(本編 P108)」は同館の積極的な情報発信活動を考察した興味深いものと感じました。

さらには、これまでもいろいろなコレクションや収蔵資料を紹介してきましたが、今号でも「受賞作コーナーと文学賞帯付本コレクション(本編 P45)」など当館の特徴あるコレクションを紹介した3編などもあります。

さて、今年是指定管理の図書館における選書の問題や全国図書館大会にお

ける貸出猶予を巡る発言など、例年に増して図書館に関する報道がなされていると感じているのは私だけではないと思いますが、こと「選書」については、図書館の蔵書構築の考え方や資料収集方針を熟知した司書の専門性がなせる業ではないかと考えています。

この専門性を高めていくには、日頃から不断の努力が求められていると思っていますが、文部科学省などが主催して例年開催されている新任図書館長研修では、図書館政策の課題として毎年のように「司書の資質向上」が取り上げられています。司書は比較的限られた範囲内での勤務が多いことから、その能力向上を図ることは全国的にも共通するテーマかもしれません。

序にもありましたように、本県では 2014(平成 26)年に横浜・川崎の両県立図書館に共通する基本理念を新たに制定していますが、この理念を具現化していくためには、やはり司書を中心とした図書館職員が、図書館を巡る内外の動きを的確に捉え、課題解決や改善提案に積極的に取り組み、継続的に研鑽を積み重ねることが不可欠であると考えていますので、この紀要の執筆もそれらに資するものでありたいと願っているところです。

読者の皆様にはこの紀要が今後の様々な場面での一助となることを念じつつ、また、紀要を執筆された職員をはじめ関係の皆様には、日ごろからの努力と研鑽に敬意を表し、編集後記とさせていただきます。